

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

討議年月日: 令和元 年 9月 20日

公表: 令和 2年 1月 27日

事業所名 放課後等デイサービス ポカラポットふじしま

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		・基準以上のスペースで活動している。	
	2	職員の配置数は適切である	5		・基準以上を配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	3	・玄関の出入り口の段差を工事した。 ・出入り口に階段や手すりをつけた。	・玄関の段差がなくなり、去年よりもよくなった。トイレや入口にスロープがないので、完全にバリアフリーとは言えない。 ・以前と比べたら手すりがついたり、段差が浅くなったが、バリアフリーではない。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5		・打ち合わせを必ず行い、帰りにも引き継ぎをしている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		・毎年、アンケート調査し、意向等を把握している。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5		・毎年、行っている。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2		・第三者による外部評価は行っていないが、実地指導は受けている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	2	・毎月のMTの開催。	・毎月MTを行っているが、参加できる人が限られている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4	1	・ポカラポット独自のアセスメント用紙で半年に1回行う。	・ポカラポット独自のアセスメント用紙はあるが、もっと活用できる内容に変えていきたい。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5		・希望される方にはVineland-II、LDI-Rを行っている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5		・毎月、MTを行っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		・曜日で固定されないように月単位で考えている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5		・前月のMTで話し合っている。 ・長期休暇にしかできないことを入れている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5		・必ずサービス担当者会議を開き、あそびの中にも盛り込んでいる。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	1	・打ち合わせを行い、スタッフ間で確認している。	・打ち合わせはほぼできているが、必ずできていない。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	1	・その日にできなかった場合は後日に共有している。	・必ず振り返りを行っていない。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		・個別支援計画のを中心に記録を取るよう心掛けている。	

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5		・カレンダーで行う月を把握し、前月のMTで行う日を決める。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	5			
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	2	3	・機会がほとんどないが、開催される時には出席している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	2	3	・毎月、各学校の行事予定を保護者さんからいただいている。	・下校時に基本的には行っているが、一部の児童の担任の先生しか話をする機会がない。 ・学校とではなく、保護者さんで行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	4		・対象児がいない。 ・医療的ケア児の利用がない。 ・必要な子がいない。 ・該当児童なし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	4	・母と利用前に情報共有を行っている。	・保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有はされていない。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	4		・対象児がいない。 ・まだ対象児がいないが、必要であれば行う。 ・卒業生がまだいない。 ・該当児童なし。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	4	・公園などで一緒に集団あそびをすることもある。	・児童館などの交流できる場へのお出かけはない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	4		・今年度は参加施設ではないので、参加していない。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	1	必要があればメール・電話を利用して伝え合っている。	・送迎時には時間に限りがある。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	1		・準備をしていると聞いている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		・施設内に掲示してある。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		・相談があればその都度、支援を行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	2	・父母の会はないが、父母同士が交流できるイベントや交流会を行っている。	・開催してほしいという希望があった。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	2	・長期休み中に活動カレンダーを配布している。 ・長期休暇の予定や座談会等のお知らせなど渡している。	・定期的に会報は発行していないが、HPで活動を伝えている。 ・発行はしていないが、長期休みの予定・行事予定はその都度発信している。
	35	個人情報に十分注意している	4	1	・文書でやり取りをしている。 ・面談ごとに変更点がないか確認をしている。	・個別ファイルなど重要書類は、子どもの目につかないところで鍵付きの書類棚で保管している。 ・子どもが入らないように必ずドアを閉めている。

非常時等の対応	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わられた事業運営を図っている	2	3		・合同イベント(夏祭り)では、地元の児童も参加している。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	1	4	・感染症対応マニュアルを策定した。	・防犯マニュアルがない。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		・今年は消防署の方を招いて、消火訓練や煙体験を行った。 ・年に2回(火災、地震を想定したものを1回ずつ)行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		・MTで年に1回、行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	2	・施設としては行わない方針。	・該当児なし。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5			
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		・ヒヤリハットの様式をより現場に反映できるように作り変えている。		